

## コミュニティ・スクールによる「社会に開かれた教育課程」の実現

### 取組のあらまし

取組団体	大阪府立富田林中学校・高等学校
取組内容	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に実施し、産官学協働の探究学習を展開。地域や企業と連携しグローバル人材を育成した成果が高く評価され、文部科学大臣表彰において優秀賞を受賞。
推進体制	14名（令和7年度）
予算等	報償費：298,800円 旅費：30,096円 消耗需用費：2,460円

## 1 大阪府富田林市の概要

人口	105,715人	令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職員数	560人	令和6年4月1日現在（一般行政部門）
総面積	39.72 km <sup>2</sup>	令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 富田林市 位置図



出所：富田林市 ホームページ

## 2 取組の背景・目的

### (1) 取組の背景

中央教育審議会の答申や新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現が強調されている。大阪府立富田林中学校・高等学校（以下「富校」）は、このような全国的・府レベルの政策・社会的要請を受けて、教育課程を社会と連携して開く「社会に開かれた教育課程」の実現をめざしている。

もともと富田林高等学校は、123年の歴史を有し南河内地域の教育拠点として多数のリーダーを輩出してきたが、新たな時代の教育課題に対応するため、平成29年（2017年）に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として誕生した。6年間の中高一貫教育を行うことで「地球的視野に立ち、地域や国の課題を考え行動し、国際社会に貢献できる人材（グローバル人材）」を育成する教育理念を掲げ、これに賛同する地域の人材とともに学校づくりを進めている。また、併設校化に合わせてコミュニティ・スクールとして、平成30年4月に学校運営協議会を設置し、生徒の探究学習と社会参画を促進する新たな学びのモデル校づくりに取り組んでいる。

### (2) 富校版コミュニティ・スクール

富校のコミュニティ・スクールの特徴のひとつは、テーマ型コミュニティか、ローカル型コミュニティかという二者択一の捉えではなく、富校の特性に合わせて両者をバランスよく考えていくことで富校らしいコミュニティ（地域）を創り上げているところである。

また、もう一つの大きな特徴は地域学校協働本部を中心とした広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・行政機関・NPO・地域住民等）との協働活動を展開していることである。協働活動を実現可能とするため、広域外部サポーターと学校運営協議会、学校で構成する「コミュニティ・スクールネットワーク協議会（CS協議会）」を開催しビジョンの共有を図っている。広域外部サポーターとの協働活動を推進することで、生徒が直接社会とつながり、社会から学び、社会的課題を解決していこうとする力が育まれることをめざしている。

図表 2 富校版コミュニティ・スクールの特徴



出所：大阪府立富田林中学校・高等学校「コミュニティ・スクール」

### 3 取組内容

#### (1) 産官学協働による探究学習の実施内容

富校の探究学習は中学校の各学年に応じて段階的なプログラムが設定されている。1年の「南河内探究」では、南河内地域の代表的な産業分野をテーマに、5分野の企業・団体の講義を受けて学びのきっかけとする。2年の「社会探究」では、南河内の産業・都市政策・企業の社会貢献活動を題材に、課題解決の方法を探りながら、実際に企業や関連団体を訪問してフィールドワークを行う。3年の「提案型社会探究」では、地域の企業・団体と共通のテーマ設定のもとで探究を深め、解決策を提案・発表する。さらに、理系教育の一環として「富中サイエンス」を1年から3年まで各学年で実施し、大学や博物館などの専門家を招いた科学講座や実験を通じて生徒の科学的志向も育てている。

これらの探究プログラムの推進にはコミュニティ・スクールコーディネーターが学校と企業をつなぎ、教員と社会資源を橋渡ししている。産官学協働の実働部隊として、企業コーディネーターや同窓会コーディネーター、地域コーディネーターが中心的役割を果たし、約80社の協働企業・150社の連携企業等と協働しながら探究学習が展開されている。また、毎年「探究学習公開授業」や全国コミュニティ・スクール大会で実践発表を行い、その成果を広く共有・発信している。これにより、生徒は学校外の学びに触れ、社会課題に主体的に取り組む機会を得ている。

図表 3 地域協働による探究活動の流れ



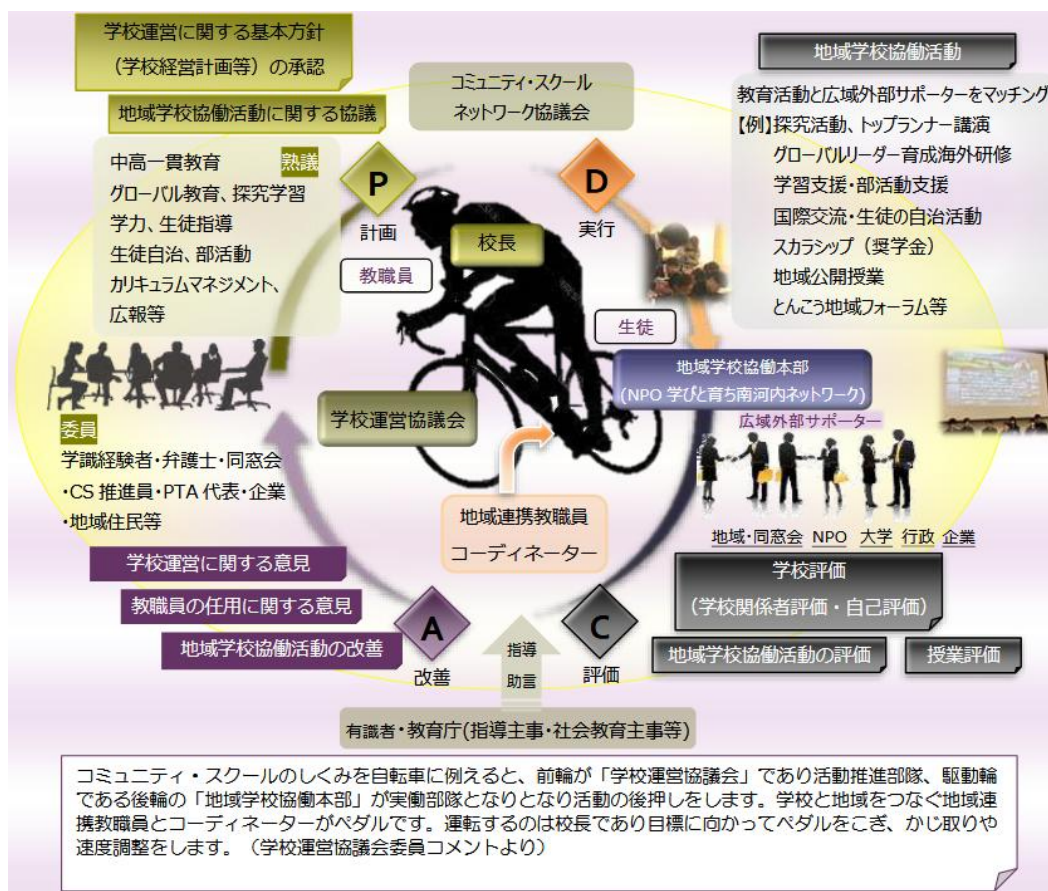
出所：大阪府立富田林中学校・高等学校「地域協働による探究活動」

(2) 推進体制

富校の「学校運営協議会」の委員は専門学校校長（元教育監）をはじめ、地域学校協働本部の会長（NPO 代表）、PTA 会長、大学教授、社会教育委員、弁護士、SSH 運営指導委員、同窓会関係者など多様な顔ぶれで構成され、総勢8名程度で年間4回程度開催している。校長や教頭を含む職員が協議会に参画し、当事者として議論しながら学校運営の基本方針を練り上げている。こうした中で、教職員側は探究学習の企画・指導に専念し、学習指導の充実を図っている。

一方、「地域学校協働本部」は、NPO 法人の事務局スタッフが中心となって企業や大学などの連携先を開拓し、学校と各協力者をつなぐ「コミュニティ・スクールネットワーク協議会（CS 協議会）」を開催し、富校の運営を支えている。例えば、同窓会コーディネーターや企業コーディネーター、地域コーディネーターが連携して、教員の学習指導（探究活動）に必要な外部人材（広域外部サポーター）を確保し、教員が教育活動に集中できる体制づくりを図っている。このように、学校・保護者・同窓会・地域・行政・企業・大学・NPO が役割分担しながら運営協議会や協働会議を通じて協力し、生徒の学びと学校運営を支えている。

図表 4 CS 協議会によるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



出所：大阪府立富田林中学校・高等学校「コミュニティ・スクール」

## 4 成果・課題

### (1) 成果

生徒の探究学習への満足度は80%以上を維持しており、社会で活躍する力の育成に対する満足度も90%以上と高い評価を得ている。主体的な探究活動を通じて、社会貢献意識の向上や自発的な学びの姿勢が醸成されている。

また、教育界でも高く評価され、本校の取組が令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に関する文部科学大臣表彰において優秀賞を受賞した。このほか、全国大会での実践発表や他校からの視察も増加し、富校の経験は広く参考事例として注目されている。さらに、コミュニティ・スクールの導入により教員の働き方改革も促進され、業務の効率化と指導力向上につなげる仕組みづくりが進んだ。

図表 5 探究学習への満足度

	指標1				指標2			
	探究学習満足度				社会貢献意識、社会で活躍する力			
	生徒		保護者		生徒		保護者	
	中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校
H29 (CS設置前年)		56		72		85		88
R5	85	83	88	86	91	93	95	90

※H29について、中学は1学年のみであることや年度途中の評価となるため未記載

出所：文部科学省「令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰被表彰取組 事例集」

### (2) 課題

一方、地域との協働体制を継続・発展させるための仕組みづくりは途上であり、大きな課題である。既存のCSネットワーク協議会をより実効性の高い実働部隊にする必要性や、地域参画者や協力企業・団体を安定的に確保するための働きかけが求められている。人的・財源的リソースにも制約があり、継続的に外部連携を担う人材育成や予算確保の工夫が必要である。

府教育庁は、モデル校である富校の実践を他校に広く発信するとともに、学校と地域学校協働本部との定期的な連絡会議の継続開催や地域・企業の参画拡大、探究活動の充実支援などを指導しており、引き続き持続可能な協働体制の構築に向けた支援が進められている。

## 関連・参考資料

---

大阪府立富田林中学校・高等学校「コミュニティ・スクール」

<https://www.osaka-c.ed.jp/tondabayashi/communityschool.html>

「大阪府立初併設型中高一貫校 大阪府立富田林中学校 地域協働による探究活動」

<https://www.osaka-c.ed.jp/tondabayashi/data/pdf/CS/CSchiikikyoudou.pdf>

文部科学省「令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰被表彰取組 事例集」

[https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/R6hyousyou\\_jireisyu.pdf](https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/R6hyousyou_jireisyu.pdf)

大阪府富田林市ホームページ：

<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/>